







平成24年度 9月11日  
海神祭

◎ 724-張り、練習日まで

1. 山金勝2代那覇宗和  
3. 官城蓮二

◎ 津運心

金勝宗和蓮二

◎ 尚いん夕

金目枝徳

平成24年度  
海神祭 9月11日

又-ルカ止

1. 山城 柳夫 3. 嘉治

2. 松本 隆 4. 前真一

若又-ルカ止

1. 松本 玄成 2. 松本 吉正

3. 松本 玉才 4. 前目 小吾 2011年 2月 24日

5. 若根 勇 6. 代那覇 賢二  
前目 由徳

役	名氏
船頭	山
補佐	山
補佐	
太鼓	嘉
アカトリ	
1	山
2	山
3	山
4	△ 吉
5	柳
6	吉
7	吉
8	松
9	X. 前
10	前
11	新
12	松
13	松
14	
15	真
16	真

9月11日  
嘉治  
前真一  
大木吉正  
小国小吾  
那覇賢二

平成24年度 田港バーリー  
【フギバン】乗組員名簿

役	名	名	名	名	名
船長	山城 博也	17			
船員	山城 流知	18			
船員		19			
大工	多山 純	20			
アカトリ		21			
1	山城 則文	22			
2	多山 隆	23			
3	山城 博	24			
4	吉田 知伸	25			
5	榎原 知男	26			
6	吉田 純	27			
7	吉田 女	28			
8	松本 凡隆	29			
9	新田 重伸	30			
10	新田 知伸	31			
11	新田	32			
12	松本 知伸	33			
13	松本 重伸	34			
14		35			
15	真野 康平	36			
16	真野 優太	37			

平成24年度 田港バーリー  
【ウフバーリー】乗組員名簿

役	名	名	名	名	名
船長	榎原 崇明	17	真野 亮		
船員	多山 全純	18	真野 康敏		
船員		19	真野 康敏		
大工	山城 重隆	20	榎原 政春		
アカトリ		21	榎原 功		
1	山城 博	22	河内 伸		
2	松本 正尚	23	榎原 龍一郎		
3	多山 清光	24	榎原 一樹		
4	榎原 宗行	25	榎原 英人		
5	松本 尚平	26			
6	吉田 知隆	27			
7	榎原 久男	28			
8	上地 知伸	29			
9	榎原 重	30			
10	吉田 重樹	31			
11	山城 重隆	32			
12	新田 重伸	33			
13	山城 清平	34			
14	真田 大輔	35			
15		36			
16		37			









































































































































































































































































































































































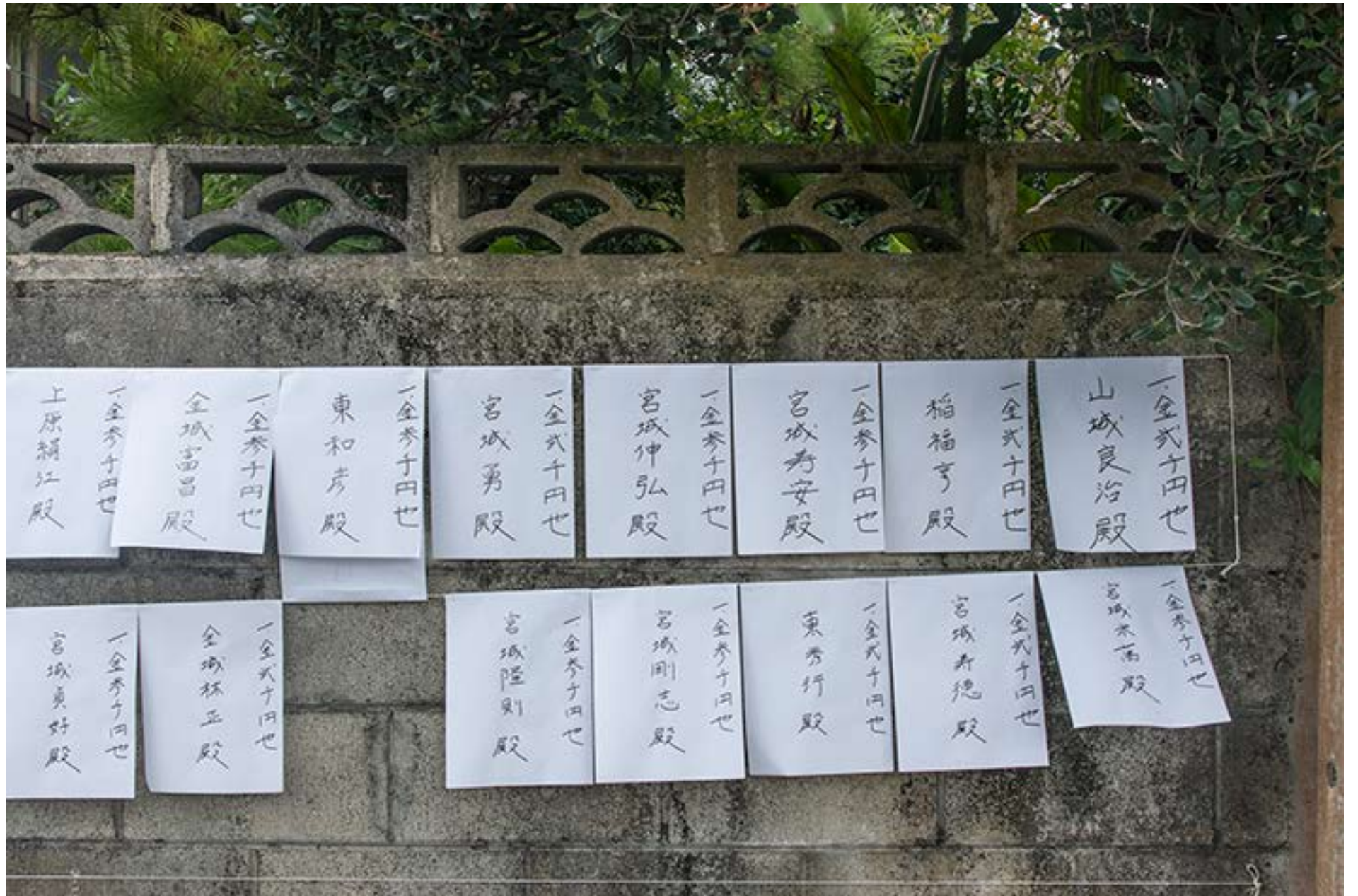












上原福江殿

一全式十四也

金城富昌殿

一全式十四也

東和彦殿

一全式十四也

宮城勇殿

一全式十四也

宮城伸弘殿

一全式十四也

宮城秀安殿

一全式十四也

福福亨殿

一全式十四也

山城良治殿

一全式十四也

宮城貞好殿

一全式十四也

金城杯正殿

一全式十四也

宮城隆則殿

一全式十四也

宮城剛志殿

一全式十四也

東秀行殿

一全式十四也

宮城秀徳殿

一全式十四也

宮城木高殿

一全式十四也



































































































大宜味村指定文化財 第2号  
「塩屋ウフンチャのハスノハギリ」

原産国：熱帯アジア  
科名：ハスノハギリ科 (Hernandiaceae)  
和名：ハスノハギリ  
学名：トウカナチ(本島)、トカナツ(八重山)  
学名：Hernandia nymphaeaeifolia Kubitzki

【歴史背景】

昭和26年に大宜味村火葬場ができる以前は、私達大宜味村の先祖の葬儀の風習は「埋葬式」であったため、塩屋区内のハスノハギリの周辺は、墓地の場として区民に利用されていたそうです。埋葬方法は、亡くなった人を棺に入れ、満ちるウフンチャ葉の中に設置し、その後、ハスノハギリの樹の下の隅にムシロを敷き、各部の骨をきれいに洗い(洗骨)、箱(紙の箱)に再び収めてハスノハギリの前にあるウフンチャ葉に納骨していたそうです。また当時は幼少期や大病で亡くなった人の骨は、ウフンチャ葉への納骨が許されておらず、ハスノハギリの樹の下に埋葬していました。「お墓に入れてあげることができないけど、この樹の蔭で我慢してね」という当時の人々の死者への想いが込められていたそうです。当時からの風習を知る土地の人々は、ウヤフアーフジ(ご先祖)や魔物がでるのではないかという事で、現在でも当時の風習を知る人たちは、このハスノハギリ付近には近づかないようにしているそうです。

【特徴】

ハスノハギリは熱帯の海岸林に多く、常緑の高木で約20メートルに達します。熱帯アジア、東南アジア、オーストラリア、ポリネシアなどに分布し、日本では小笠原諸島や琉球列島の沖永良部島以南に産し、特に八重山諸島に多くみられます。この植物の分布領域からすると北限に達しています。ハスノハギリの果実は海水に浮いて漂流するので熱帯各地の海岸では高木のハスノハギリがよく見られます。

材は、ホリに似て軽く柔らかで、加工しやすいことからカヌー、船、下駄、安い合板や室内用材に利用されたりします。ほかにも以前、ハスノハギリは、心材部の煎じ汁を血止めにしり、種子をつき砕いて切り傷や膿部の消毒に使ったりしていました。また、ハスノハギリの葉実が食用になりませんが、沖縄では、葉実の上方の穴を吹くとプープー音するので子どもたちのおもちゃとなったそうです。また沖縄地方ではプープーギ、トウカナチ、トカナツなどの方言で呼ばれています。







